

医学英語Ⅳ

科目責任者 山 口 重 樹

学年・学期 4 学年・前期

I. 前 文

医師には、最先端の医療を提供するために最新の原文（多くが英語）の教科書や英文医学論文を読み解き、最新の知識をアップデートする必要があります。また、英語での研究発表能力や学会での自由な討論能力などの国際的交流が、最新の知識をアップデートに繋がります。そのため、卒前・卒後・専門教育における一貫した医学英語教育が重要になってきます。その基礎となるが英語の専門用語の習得となります。本講義では、各講座の専門講義ごとに、英語の専門用語を集中的に整理・学習します。なお、本学大学院における学位申請に係る外国語試験（毎年6月と12月に実施）は第4学年以上の医学部学生にも受験資格が与えられています。この大学院外国語試験の受験も視野に入れて学習していただきたいと思います。

II. 担当教員

黒 須 明, 他担当教員（法医学）
 青 木 琢, 他担当教員（外科学（肝・胆・膵））
 仁 保 誠 治, 他担当教員（内科学（呼吸器・アレルギー））
 山 口 重 樹, 他担当教員（麻酔科学, 医学英語Ⅳ科目責任者）
 小 橋 元, 他担当教員（公衆衛生学）

III. 一般学習目標

英文教科書や臨床系の英語論文（症例報告や臨床研究など）を読解するために必要な英語の専門用語の習得を目指します。

IV. 学修の到達目標

- 1) 英文教科書あるいは国際誌の臨床英語論文の内容を理解できる。
- 2) 第5学年でのCCで臨床実習する際に必要とされる専門用語を理解できる。
- 3) 病歴やレポートの専門用語を英語で記載できる。
- 4) 本学大学院で学位申請をする際に必要とされる医学英語を理解できる。

V. 授業計画及び方法 * () 内はアクティブラーニングの番号と種類

- (1: 反転授業の要素を含む授業 (知識習得の要素を教室外で済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態。))
 2: ディスカッション, デイバート 3: グループワーク 4: 実習, フィールドワーク 5: プレゼンテーション
 6: その他)

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
1	4	7	月	2	「公衆衛生学」で扱う医学用語	小 橋 元 他 担 当 教 員	1
2		8	火	1	「法医学」で扱う医学用語	黒 須 明 各 担 当 教 員	1
3		24	木	6	「緩和ケア」で扱う医学用語	山 口 重 樹 各 担 当 教 員	1
4		28	月	4	「遺伝子と医学」で扱う医学用語	小 橋 元 各 担 当 教 員	1
5	5	14	水	1	「症候学」で扱う医学用語	青 木 琢 各 担 当 教 員	1

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者	アクティブ ラーニング
6	5	23	金	1	「臨床腫瘍学」で扱う医学用語	仁 保 誠 治 他 担 当 教 員	1

VI. 評価基準（成績評価の方法・基準）

各科目の定期試験問題内の英語問題が「医学英語Ⅳ」の評価として集計されます。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

教材

毎時間必要な教材を配布します。

辞書

『ステッドマン医学大辞典 改訂第6版』 メジカルビュー社 2008年

日本医学会 医学用語辞典 Web版 (<https://jams.med.or.jp/dic/mdic.html>)

各領域の教科書・参考図書

VIII. 質問への対応方法

講義時間中に受け付けます。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置く DP ○：重点を置く DP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	○
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験の内容及びレポート等のフィードバックについては各担当科目による。

XI. 求められる事前学習、事後学習およびそれに必要な時間

事前学習：講義の分野の英語医学用語に目を通しておく。（30分）

事後学習：講義の分野の英語論文を検索し、興味があるものを通読することにより、該当分野の英文に慣れ親しみ、用語を定着させる。（30分）

XII. コアカリ記号・番号

PS-02, RE-02-02